

学びの連続性を意識し、主体的に課題解決に取り組む児童の育成

ー理科における振り返りの充実と活用を目指してー

桑折町立伊達崎小学校 教諭 小野 絃子

1 研究の趣旨

令和5年度、福島県教育委員会より、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行うに当たって、「何のために学ぶのか」を明確にし、単元及び本時のねらいを設定することや、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、授業のねらいに沿った振り返りやまとめの時間の充実を図ることが示された。本校ではこれまで、児童が意欲的に学習できる課題設定の工夫や、振り返りを書かせることなどに取り組んできたところであるが、未だ課題は多い。

そこで、本研究では、これらの視点をもった授業改善を通して、課題を自分事として捉え、学びを深めることのできる児童の育成ができると考え、以下の仮説を設定した。

児童が学習の見通しをもてるように単元の導入を工夫したり、気付きのある振り返りを促し生かす授業構想を構築したりすれば、児童自身が学びの連続性を意識し、主体的に課題解決に取り組むことができるであろう。

2 研究の概要

(1) 学習の見通しをもつことのできる単元の導入

- 児童が単元の学習に必要な既習事項を確認し、新しい学習の見通しをもち、学習課題を捉えることができる導入の工夫を行う。

(2) 学びの自覚を促す振り返りの工夫と見取り

- 児童自身が知らないことがあることに気付き、自分事として課題解決に向かおうとすることができる振り返りを行う。
- 児童の振り返りを見取り、充実感、達成感、自己効力感などの学びの手応えが感じられるような働きかけを行う。

(3) 児童の思いを生かした授業づくり

- 児童が書いた振り返りを次時の導入へ生かし、課題設定へとつなげる。

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 単元の導入で一人一人の児童の疑問を共有し、それを学級全体の学習課題とすることで、児童が課題解決に向けて意欲的に取り組むことができた。
- 児童の振り返りから学習課題に関連する疑問を見取り、その疑問を学級全体で共有したり次時の授業で疑問解決への働きかけを行ったりすることで、学びを深めることができた。また、その後の振り返りで疑問が解決したことについて記入する姿が見られ、学びの連続性が意識されてきている。

(2) 今後の課題

- 児童の書いた振り返りの共有は、主に疑問を全体で解決しようという場合に行っていた。今後は、児童の気付きや深い学びができていた内容の共有も図り、友達から称賛を受ける機会も設けることで、児童の充実感、達成感、自己効力感などを高めていきたい。